

園・小・中連携を推進するための教頭の役割について
—「妙高高原中学校区園・小中学校連絡協議会」の取組を通して—

提言者：妙高市教頭会 妙高市立妙高高原北小学校 百目鬼 弘通

1 提言の要旨

妙高高原中学校区（1園、2小、1中）では、平成21年度から妙高高原地区園・小中学校連絡協議会（以下MK連）を組織し、園・小・中の連携を推進してきた。これは、入園から中学校卒業までの12年間の中で、系統的な見通しをもって具体的、計画的、継続的に指導・支援、研修を進めるためである。

教頭の役割は、これまでの連携体制や成果を確認し、前の校種段階での教育が次の校種段階で生かされるようにすることである。

そこで、MK連では、中学校区教頭会の協働性や自校の取組における関与性を課題とし、以下の3点の取組を行った。

(1) MK連の組織と役割

各校の校長と教頭が、部長と副部長を務める3部会（学力向上、心づくり、健康づくり）の他に、MK連園長・校長会、MK連教務主任会、MK連園・小連絡会を組織している。教頭として、各部会等での課題を整理し、各部会の共通取組事項の設定やその自校化に向けた体制づくりを行った。

(2) 園・小学校の連携による取組

アプローチカリキュラムや園・小・中の連携行事を指導計画等に位置付けている。交流活動のねらいを明確にすることで、職員同士の連携や園児と小学生の交流を図っている。

教頭として、園の担当者と課題の整理や全体計画の立案を行い、移行学級では保護者へスタートカリキュラムについて説明した。

(3) 小・中学校の連携による取組

学力向上のため小・中の授業交流や家庭との連携、「いじめ見逃しゼロスクール」の実施、運動会等の相互招待活動を行っている。

教頭として、学校評価に園小・小中連携の項目を位置付け、自校の教育活動に各部会の取組を関連付けるよう指導、助言を行った。

2 研究協議

(1) 全体協議から

5名の参会者から主として発表に係る質疑が行われた。「MK連の組織を生かした妙高型コミュニティスクールをどうイメージし、組織していくのか」「MK連では、行政との関わりはどうか」等、今後の課題や方向性を示す内容であった。また、「園・小・中連携を推進する教頭としての醍醐味や限界」を問う質問に対して、「苦しいと思わず楽しみながらやるのが大事」という回答から、教頭として前向きに職務に取り組む大切さを感じた。

(2) グループ別協議から

「月1回の校長会が大事な柱である。各部会の内容を自校化する際、教頭は校長会の方針を踏まえながら中学校区の教頭会で共通理解することが大切である」「中学校区で教頭会を組織するメリットを感じた」「中学校への進学先が1校でないため、連携の組織づくりが課題である」「MK連通信は、職員だけでなく保護者、地域への周知の意味で、大変参考になる取組である」といった意見が交わされた。

3 指導助言

柏崎市立日吉小学校長の神林均先生から、社会に開かれた教育課程と題して、校長の意を体し、教頭同士のつながりを大切にしながら「園・小・中の縦の連携と同時に、保護者・地域住民との斜めの関わりを大切にW in-Winの関係を築いてほしい」「全戸配布の通信は、ビジュアルや文言の工夫、数値データの活用等が望まれる」等、具体的な取組の視点をご教授いただいた。また、「『論点整理』の確認と『審議のまとめ』の読み込みの大切さ」について、ご指導をいただいた。

キャリア教育を中核とした未来を切り拓く力の育成 —中学校区小・中学校9年間のつながりを意識した教育の推進—

提言者：上越市小中学校教頭会 上越市立雄志中学校 石野 光一

1 提言の要旨

雄志中学校では、これまでの取組からキャリア教育を中核とした教育活動を推進している。昨年以來、中学校区全体で取り組むキャリア教育の推進を掲げ、「中学校区キャリア教育取組プラン」を作成してきた。今年度の課題は、全職員の共通理解を図りながら自校の取組を充実させるとともに教頭会がパイプ役となって以下の実践を通し中学校区の取組に寄与することである。

- (1) 目指す方向、実践事項の明確化
- (2) 組織的な実践の促進
- (3) キャリア教育の視点からの育てたい力の指導計画への位置付け
- (4) CSと地域青少年育成会議の有効活用
- (5) 中学校区小・中9年間のつながりを意識した教育の推進

2 研究協議

(1) 全体協議から

「キャリア教育の視点」「組織づくり～実践」「CSや青少年育成会議とのつながり」「中学校区小・中学校の実践」など、提言で示された取組内容に関する質疑応答が多く交わされた。

キャリア教育で育てたい力＝教育目標とし、研修の協議題は「かかわる」視点で行っていること、「3年生になったら～」「～の先輩になりたい」など、志の意識が生まれているという実践の成果が述べられた。

さらに中学校区の小・中学校のつながりとして、「雄志授業スタイル」を各小学校でも自校版として共通取組を行うこと、アウトメディアの取組を中学校区内全学校で行うことなど、少しずつ実践が蓄積されていることが報告された。

(2) グループ別協議から

雄志中学校の提言を受けて、「キャリア教育」「小中連携（一貫）」「地域連携」等に関連した話し合いが活発に行われた。上越市内では、中学校のキャリア教育を軸に中学校区の小学校をキャリア教育でつなぐ、学校運営協議会（CS）を活用して地域と小中が一緒に挨拶運動を行う、小中一緒にアウトメディアの取組を行うなどの具体的な実践が紹介された。糸魚川地区・柏刈地区からは、学校支援地域支援本部事業の活用で、優秀なコーディネーターが機能しているなどの紹介があった。

その他に教頭会が中心的な役割を担う小中一貫教育の組織、地域の人が活動する部屋を学校に置く実践、小学校の体育館で行う中学校の部活動、地域ごとの活動に対する予算の有無など、実際に組織・活動のパイプ役を担う教頭としての視点から、様々な情報交換が行われるとともに今後取り組むべき課題についても指摘されていた。

3 指導助言

柏崎市立鏡が沖中学校長の若月俊彦先生より、以下の2点をお話いただいた。
◎キャリア教育の視点：一人一人の子どもが将来自立していくため、学校教育の全てがキャリア教育の積み重ねである。雄志中は以前からキャリア教育を中核にした素晴らしい取組をされていると聞き及んでいる。
◎コミュニテイスクール（CS）は行政の後押しがあり恵まれている。今後の学校を考える際、馳プランの三本の矢「地域連携」「チーム学校の実現」「教員の資質向上」等に関しては、組織・体制の充実は教頭の肩にかかっている。

学校における教頭の役割の重要性をご指導いただいた。

中学校区連携による「つなぐ」「高める」取組 ～教職員の資質・能力や専門性の向上を図る教頭会の関与性～

提言者：糸魚川市教頭会 糸魚川市立田沢小学校 平野 浩一

1 提言の要旨

糸魚川市が掲げる「子ども一貫教育方針（0～18歳）」「ひとみかがやく日本一の子ども」の推進を受け、青海中学校区では『青海地域連携を進める会』を中核に、幼保・小・中が連携を進め、取組を行ってきた。平成25年度から、「学力向上」を中心課題とし、共通取組プランの策定・実施、課題解決に向けた組織づくりを中心に、教職員の資質・能力の向上や教職員の専門性の向上を図る教頭会の関与性に焦点化して取り組んだ。

課題解決の取組として、①身に付けたい資質・能力の共有と発信 ②組織の再編成 ③各部会の取組 ④学力向上部会を受けた各校での取組 ⑤教頭会の役割の5つの視点から述べる。

①、②では、校区教頭会は学力向上に課題を焦点化し、「中学校卒業時の生徒像」と「発達段階に応じた資質・能力」の原案、組織再編案を校長会へ提案した。③では、学力向上部会の取組として、平成26,27年度は家庭学習の取組に重点を置き、各校で共通した取組を可能にする支援を行った。他の3部会についても教頭が部会職員と密に連携を取り、計画や調整、指導、助言を行った。④では、小中合同指導案検討会や教頭による模範授業、家庭学習プランの自校化に向けた支援などを行った。⑤では、共通取組プランのPDCAサイクルを生かした取組の中で、校長会への意見具申や、授業づくりの視点の具体化への指導的役割を果たした。

成果として、校区教頭会の連携強化と教頭としての計画立案から職員への指導・助言まで様々な場面での関与性が高まったことが報告された。課題として、各部会の取組を学校に下ろし、人材育成を図るための教頭のマネジメント力の向上を図ることが挙げられた。

2 研究協議

(1) 全体協議から

成果で述べられた授業づくりの具体化については、①課題とねらいを明確にする。②振り返りを位置付ける。③チョークの色を明示して板書を行うことを共通の取組とし、関わり合っただけで学ぶ授業を実施していることが示された。また、教頭会として、校長会へ提言するための準備や取組後の成果共有を行っているとの説明がなされた。評価結果の部員への浸透について、まだ十分ではない。家庭学習における身に付けさせたい資質・能力は、基礎的な知識・技能から活用力へと発達段階を踏まえ、児童などの実態をもとに作成された。

(2) グループ別協議から

「教頭会が中心となって中学校区・地域で何ができるかを改めて考えさせられた」「中学校区の取組を評価し、保護者や地域へ発信することが、教職員の意欲を高め、資質・能力の向上につながるのではないか」「職員の意欲や取組を向上させる評価はどうあるべきかが課題である」などの意見が交わされた。

3 指導助言

柏崎市立剣野小学校長の斎喜和彦先生より、「小中連携の在り方」と求められる人材育成について、以下のご指導をいただいた。

提案発表では、課題が明確で子どもの姿が表れており、活動が充実している。一方で、子どもの育ちや、職員の専門性の育成が今後の課題である。職員の専門性を高める目的やメリットを明確に示し、取組を既存の教育活動に置き換え、役割を示す必要がある。育てたい力として学習指導力や生徒指導力があるが、どこに重点を置くかを決め、個人に身に付けさせたい力や指導の場、役割を明確にして、職員を育成していく必要がある。

第 5 2 回 新潟県小中学校教頭会研究大会 第 1 0 回 上越地区ブロック別研究大会実施報告書

- 1 期 日 平成28年10月28日(金)
- 2 会 場 柏崎市市民プラザ 柏崎市東本町1-3-24 Tel.0257-20-7500
- 3 主 催 新潟県小中学校教頭会
- 4 後 援 新潟県教育委員会 柏崎市教育委員会 刈羽村教育委員会
新潟県小学校長会 新潟県中学校長会
柏崎市刈羽郡小学校長会 柏崎市刈羽郡中学校長会
- 5 主 管 柏崎市刈羽郡小中学校教頭会
- 6 研究主題 「豊かな人間性と創造性を育む学校教育」(キーワード 生き抜く力・絆づくり)
サブテーマ 「生涯にわたって能動的に学び続ける子どもを育む学校づくり」(3年次研究)

7 日 程

13:00	13:25	13:40	16:10	16:20
【開会式】	移動等	【分科会】提案発表・グループ討議・御指導	【閉会式】	

(1) 受付 柏崎市市民プラザ

(2) 開会式次第 (波のホール)

- ①開会のことば (大会実行委員長)
- ②開会のあいさつ (県教頭会副会長)
- ③来賓祝辞 (柏崎市教育長様)
- ④来賓・指導者紹介 (大会副実行委員長)
- ⑤大会趣旨説明 (大会研究部長)
- ⑥閉会のことば (大会副実行委員長)

(3) 分科会 (風の部屋 1 / 2 / 3 学習室 201 / 202 学習室 301 / 303 / 304)

- ①開会のあいさつ (指導者, 提案者, 支援者, 司会・記録の紹介)
- ②分科会の進め方
- ③提案発表
- ④質疑応答
- ⑤グループ討議
- ⑥御指導

(4) 閉会式次第 (各分科会会場)

- ①開式のことば
- ②大会宣言
- ③閉会のことば (御礼のことばを含む)
- ④諸連絡

8 指導者

- | | | |
|-------|-------------|---------|
| 第1分科会 | 柏崎市立日吉小学校長 | 神林 均 様 |
| 第2分科会 | 柏崎市立鏡が沖中学校長 | 若月 俊彦 様 |
| 第3分科会 | 柏崎市立剣野小学校長 | 斎喜 和彦 様 |